

# 藤田浩子の 少し昔のこと 〈103〉

## 心にとどめた赤い色・紅葉

結婚して福島市に住んでいた頃の話です。長女の担任の先生が熱心な組合員だったので、11月の末、会津で開かれた日教組の大会に誘われて参加したことがありました。福島市と会津を結ぶスカイラインという、山を切り開いた観光道路が開通して間もないころでして、誘ってくださった先生の運転で、帰りはその道を通って帰ってきました。全山これ紅葉、延々とそのスカイラインの両側にあざやかに映える紅葉の美しかったこと！カエデとナナカマドぐらいしか知らない私ですが、とにかく同じ赤でも色とりどりで、それも町中に見る赤とは全く違うあざやかな色で心を奪われました。あのとき見た赤は、こんな美しい色がこの世にあるのかと思うぐらい

きれいで、絵を描く人だったら、きっとこの色を何かの形に残しておきたいと思ったでしょう、俳句や短歌を作る人



だったら、美しい言葉でこの赤をたたえたことでしょう。私はただただ、ぼーっと見ていただけでした。

その後20年ぐらい経って、もう一度秋のスカイラインを通りました。一緒に行った友達は「きれいだ、きれいだ」と言ってくれましたが、私は「あのときの赤」を知っているので、そのときはあまり感動しませんでした。何十年かの間に、たくさんの車が通って排気ガスなどで紅葉の色が変わってしまったのでしょうか、それとも私の頭の中で「あのときの赤」がどんどん美化されてしまったのでしょうか。北海道に行ったとき、町中で見たナナカマドの並木もあざやかでしたが、所詮並木ですから迫力はありません。すべての山がすべて紅葉しているというスカイラインの「あのときの紅葉」に勝る紅葉を私はまだ見ていません。年寄りになにかにつけて「昔はよかった」と言いますから、気を付けてはいるのですが、やはり昔見た「あのときの赤」は日本一と思っている私です。

リレー連載 <236>

## わたしの大好きな絵本

絵本と出会いの広場ほしの子代表 羽鳥深雪

やんちゃな3人の男の子の子育てに奮闘していた私は、多くの絵本に助けられました。

この絵本に登場する魔女のマジョンナさんは私が毎日ヘトヘトになりながらやっている、洗濯、買物、食事作りを魔法の力でパパッとこなします。読む度に「あーあ…私にもこんな魔法が使えたらどんなに子育てが楽しいか…」とっていました(笑)

長男が寝る前にこの本をよく読みました。当時は親に甘える事がちょっと恥ずかしいと思い始めた時期。

彼の1番のお気に入りの場面は最後のページ

## 『となりのまじよのマジョンナさん』

ノーマン・ブリッドウェル 作

長野ヒデ子 絵 ながつきり 訳

借成社

「変身させてほしい」という女の子の切なる願いをマジョンナさんはキッパリと断わります。そして、その子にある言葉をなげかけるのです。そのページを読むと、息子はまるで自分が言われたかのように、優しい表情を見せてくれました。そしてマジョンナさんのその言葉は、読み聞かせをした自分をも穏やかな気持ちに変身させてくれるのでした。

この本は私たちに魔法をかけてくれた大切な1冊です。

